

まちづくりの原動力は、地域の一人ひとりの力！ ～登別市連合町内会創立20周年記念講演会・式典～

12月5日(日)、市民会館で登別市連合町内会創立20周年記念講演会と式典が開かれました。

連合町内会は、昭和59年12月に各町内会の連絡調整や住みよいまちづくりの推進などを目的に発足。現在、11地区連合町内会・95町内会等が加入し、住民福祉の向上のため活動しています。

連合町内会創立20周年記念講演会（登別市民憲章推進協議会と共催）では、落語家の桂才賀さんが『子供を叱れない大人たちへ』と題し、講演。自らの少年院篤志面接委員としての活動や非行少年たちとの会話にふれながら、「両親が死ぬ気で（非行を）止めてくれていたら、私はここ（少年院）にいなかった」という声を紹介、「怒ることと叱ることは違う」などと、大人と子どもとの関わりの大切さを熱く語りました。

続いて開かれた記念式典には、関係団体役員や各町内会役員など約270人が招かれ、あいさつに立った登別市連合町内会の山田正幸会長は、「まちづくりの原動力は、地域の一人ひとりの力で、それを束ねているのは町内会活動」と、明るく住みよいまちづくりに向けた町内会活動の大切さを語りました。



◀桂才賀さん
(記念講演会)



▲登別市連合町内会創立20周年記念式典

地域資源の新たな活用法を考える ～シンポジウム『地域資源の活かし方を考える』～



11月27日(土)、中央町のホテルでシンポジウム『地域資源の活かし方を考える』（登別市・白老町広域雇用創出クラスター担い手育成事業推進協議会主催）が開かれ、市民ら約100人が自然環境や温泉など地域資源の活用法を学びました。

第1部はNPO法人健康保養ネットワーク代表の阿岸祐幸さんや室蘭工業大学助手の安孫子勤さんなど4人が、自然や温泉の活かし方について講演。第2部では講演者などを交えたパネルディスカッションを行いました。出席者からは「登別、白老は海と高原と森林を見直すべき」「自然八景を見つけない」「噴気口の音が聞ける日和山のPRを」などのアイデアが次々と出されていました。

自分で打ったそばで年越しを ～年越しは手打ちそばで教室～

11月27日(土)・28日(日)、文化伝承館で公民館講座『年越しは手打ちそばで教室』が開かれ、20代から80代までの市民34人がそば打ちに挑戦しました。

この教室は、自分で打ったそばで年を越してもらおうと、毎年この時季に開かれている人気行事。参加者は同館ボランティアグループSLGのメンバーでそば名人の山下利夫さんらの手ほどきで、そば粉と中力粉をこね合わせ、のし棒で平らに伸ばしました。包丁作業では、そばの太さがそろわず四苦八苦。参加者の熊谷勲さん（若山町）は「こんなに難しいとは思わなかった。のしが大変」と苦戦ぶりを振り返りながらも、「自分でつくったそばを家族に食べさせてあげたい」と年越しそばづくりに意欲満々の様子でした。

